

- ① 近年の学力観と言語教育観の動向を理解し、その点から「考えること」「ことばにすること」による学びの重要性に気付ける
- ② 「考える活動」と「知識」と「言語活動」の関係を改訂版タキソノミーから捉え、実際に考えることが出来る
- ③ 「考える活動」を重視することによって「ことば」の学びの意味を改めて考えなおすことができる

	研修の活動展開	研修担当者の動きや働きかけ、内容	研修受講者の動きや考えること	備考（情報と知識）
13:35	1 実際に一緒に学習を体験する	● 外国につながる子ども（日本語を学び中：おしゃべりはできる）の高学年の子どもに対する授業と一緒に受ける（スライド2～4） ・ 学校でお米を育てています。でも草が生えて困ります。これはそのときのクラスの友だちの日記です。 ・ A～E は順番が違います。正しい順番はどれですか？ ・ あなたならどんな提案をしますか？文章にしてみましょう！ ● 「草取り提案」活動は、どんな力を、どんな方法でつけていますか？（スライド5） ・ 「学力としての力」「ことばとしての力」に分けて考えて見ましょう ・ 方法として「くふう」されている点、もっとくふうしてみたい点はなんでしょう？	・ みんなで一緒に考える。 ・ 正しい順序に入れ替える ・ なぜそう思うかも話してもらう ・ 誰か2人くらいに代表で文章を考えてもらう ・ この活動を通して身につけさせようとしている力を「学力としての力」「ことばとしての力」の点から考える ・ 「くふう」（日本語が学び中の子どもでも参加できる工夫）を見出したり、もっとよく出来る方法を考える	・ ここではあまり「模擬」っぽくはせず、自分として考えてもらうことでOK ● 南浦がつくった授業なので現場の先生だともっといいくふうがあるかもしれないので…
14:00	2 今、学校でどのような力が求められているのか？	● 「学問的に厳密な学び」「社会的に有用な学び」の2つの面から、学力論としてどう変化してきたかを伝える。（スライド6） ● 「外国語・第二言語を学ぶ」ことも「学んでから使う」「使いながら学ぶ」の2つの面がどう変化してきたかを伝える。（スライド7） ● 学力像と言語教育像は共通してどういう変化をしてきているのだと言えますか？	● 「学問的に厳密な学び」（系統主義）と「社会的に有用な学び」（経験主義）の中でこれらの両面を結びつける方法として「探究」「思考」があることを改めて知る。 ● 「学んでから使う」「使いながら学ぶ」がどちらかというと「使いながら学ぶ」の面に変わってきたことを知る。 ● どちらも共通して「知識→活用」ではなく「ホンモノの学び」の中で情報や知識を得ていく「為すことで学ぶ」に	● ここは情報としての概念説明が中心になる ● 共通点を捉えさせることが重要

			なっていることを捉える。	
14:15	3「考える」と「ことば」はどう組み合わせられているのでしょうか？	● タキシノミーの思考の分類とともに、それを行動化する際のサブ活動の表として整理する（スライド8） ・ 「記憶する」～「創造する」だとわかりにくいのですが、具体的な行動にすると、イメージがしやすいですね。 ・ さっきの「草取り提案」にはどの行動が含まれていましたか？ だからこそどういふ思考が育まれていたと言えるのでしょうか？	・ 思考力は「活動」を共にすることによって養われることをイメージする ・ 草取り提案活動については「並び替える」「提案する」が含まれていたことが重要だったことを確認する	・ 近年ブルームのタキシノミーはよく日本語教育でも注目されることが多いが、往々にして思考の分類に留まることが多い。その背後にある考え方として「名詞ではなく動詞で示されていることの意味をちゃんと伝える。 ・ 従来のJSLカリキュラムは1998年版指導要領のころにつくられたもので、こうした「思考」への視点が弱いことを伝える
休憩				
14:40	4 つくってみましょう	● つぎの「よくある指導」を「日本語学習者向け」につくってみましょう（スライド9） ・ この展開はどのような問題がありますか？	・ 実際は「文章を理解すること」が中心になっている ・ 思考するという面が弱い、そのため評価のポイントも「理解したかどうか」「まとめたかどうか」になり、知識思考の次元としても低い。また言語依存性が高い授業で日本語を学んでいる子どもにとっては著しく不利益。	
14:45		● では、どういうふうにするといいでしょうか。 ①「授業の部品」をどんな順序と組み合わせにするといいでしょうか。 ②そこにどんな工夫をさらにいれると日本語学習中の子どもにとってより参加しやすいものになるでしょうか。	・ グループで考える。 ・ 「授業部品」カードをグループに1セット配布し、動かしながら考える。 それを模造紙に貼る。 ・ さらによりよい工夫を付箋で書き込んで増やす。	● 準備物 ・ 授業部品カード（南浦用意）
15:20		● いくつかのものをしながらコメントし、例示として南浦の物も見せる（スライド11） ・ スライドの思考の分類を思い出してみましょう。自分たちの考えたものはどれとつながっていますか？ ・ 南浦の授業案は最後の「文で伝える」が微妙に曖昧で意欲につながりにくいのですが、思	・ つくったものをふりかえりながら思考の分類とつなげてみる ・ 南浦さんのはもっと、伝える点のところに「選択する」（文章を選ぶ）とか	部品Aの「文章」はリライトする必要があるだろうが今回はそれは「リライとしたとして使う」と指示

		考と活動の表からどういう活動が考えられるでしょうか。	「応用する」(ファスナー以外の物)で説明させるなどをしてよいのではないか。	
15:40 15:55	5 これまでの活動から重要な点をまとめる	● 「思考を活動化」することで生まれるよさは何でしょうか。 ・ ①思考活動化することで「わたし語」で参加できる。②インプット重視でなくなるため、「自分なりの参加」がしやすくなる。③アウトプットで可視化されるため、表現と評価がしやすくなる。(スライド12) ・ 視点①「わたし語」を用いることで「どのような言語を用いているか」と「何を考えているのか」という言葉の形式と意味を分けて考えることを大切にする。(スライド13) ・ 視点②日本語指導の授業は「学習言語能力を伸ばすこと」ではない。(スライド14) ・ 「あるべき」言葉に私を近づけるのか、私の「ありたい」言葉を近づけるのか? の意味を考える ・ 自分の言葉と外の言葉を合わせ、自分なりに言葉を紡いでいくことの大切さ ● 最後に今日の授業のネタになったものを開示する。全国学力調査問題であったことを詳らかにし、今日のような授業こそが、求められているところにあるのだと言うことを知る。	・ 3つのポイントはどういう意味だろう? ・ 「わたしなりの言葉」ということを踏まえながらそれを価値づけていくことの大切さを再確認する ・ 外在的に実在する言語を獲得するのではなく、内在的実存的なことを外の言語を利用して紡いでいくことこそが言葉なのだと言再確認する ・ そもそも、「学習言語能力」を提唱したカミンズ自身が「授業は生活言語と学習言語が重なるものであり、それらを明確に分けるものではない」と述べている。 ・ 自分なりにアウトプットしていくこと、それを先生や友だちと交換していくことにこそ、授業の価値はある。	・ 「わたし語」としてサイトを紹介 https://tsunagu.jp/go.jp/ この点を真に納得するためには「評価」の意味やありかた自体を知る必要がある。時間が余ればここに触れる。